

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 6 日
所 属： 獣医学部 動物応用科学科
氏 名： 柏崎 直巳 職位： 教授
役 職： 麻布獣医学園 評議員

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任(教育活動の範囲)				
<p>獣医学部動物応用科学科および獣医学研究科動物応用科学専攻における「動物繁殖学」および「動物繁殖学研究室」を担当し、人類の福祉のために動物を利活用するために必須となる動物の繁殖に関連した分野におけるその機序および関連技術等について教授した。また、この発展型講義の「動物分子生殖科学」および「動物受精卵移植論」においては社会における「動物応用科学」の重要性および「動物繁殖の利活用」についても解説した。さらに、学部3・4年生に対して「動物繁殖学」における配偶子・初期胚を体外において様々な操作を加える「動物生殖工学」領域に関連した「卒業論文研究」指導および大学院修士論文の審査を行った。</p>				
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
「動物繁殖学」	動物応用科学科	必	2	135
「動物分子生殖科学」	動物応用科学科	選	3	60
「動物受精卵移植論」	動物応用科学科	選	3	60
2. 教育の理念(育てたい学生像, あり方, 信念)				
<p>1. 激変する現代社会において、動物応用科学の視点を持って、自らの社会活動・業務に対して、適切な創意工夫をもって遂行でき、同時に、それに関連する重要な課題・問題点等について自ら把握できる人材を育成する。また、社会の一員として人類の福祉に貢献する動物応用科学の視点から、常に進展、あるいは変化するさまざまな社会状況や関連する科学情報について適確に課題を把握できるように情報を自ら収集し、適確にその解決や対応に向けた手段を考え、実行する能力を有する人材を育てる。さらに、人類の抱えるグローバルな食料生産・地球環境保全等の重要課題に対して、的確に状況を把握でき、さまざまな知識・技術を適切に組み</p>				

合わせ、自らの周辺に存在する関連する課題・問題に対し、自ら解決に積極的に向き合い、そして解決法を考え、実践することができる人材を輩出する。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標：学修は、学修者自身のモチベーションが非常に重要である。授業やゼミ等において、学修者が自ら積極的に取り組みことができるように、教育の目標とする課題の重要性、社会での意義、利活用の実例等について、より具体的な事例や数値などを提示することによって、学修者が自ら取り組むべき分野の重要性について、より明確に意識した上で学修に取り組めるように工夫する。また、ニュースなどで取り上げられる身近な関連事項を紹介し、課題の重要性について追加的に補強する。さらに、教育を進めていく上で学修者の理解度をレポートや小テスト等で把握しながら、適時、復習や追加的、かつ適切な解説を加える。その際、双方向的なテスト解答およびレポート課題に対するコメント等を利用することにより、学修者に対する個別の補強指導を行う。また、学修者の理解度等の状況に応じて、教育対象分野の重要な点をさらに絞って、より本質的な点について、焦点を当てつつ、テストやレポート課題等を適切に修正しながら課し、より本質的な部分を掘り下げ、対象分野の重要性や課題に対する理解を深められるように工夫する。これらのためには、これまで以上に社会のニュースや生活関連事例、それらに関連した著書や関連研究論文等についてより広く情報を収集し、学修者に対する教育ソースの充実に勤めていく。

アクティブラーニングについての取組

学修者が自らの学修に対して積極的に取り組みことができるように、教育の目標とする課題の重要性、社会での意義、利活用の実例等について、より具体的な事例や数値などの資料を提示しながら教授する。

ICTの教育への活用

「AZamoodle」の「テスト」・「課題」などをより一層活用する。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

②学生の理解度の把握（A）

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A）

⑤双方向授業への工夫（A）

※A（十分実施している）B（実施しているが十分でない）C（うまく取り組めていない）

<p>上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。</p> <p>「アクティブラーニング」の強化を図るために授業の導入部分における提示資料を見直し、強化する。さらに授業の項目ごとに、その応用・利活用の事例等を示すように授業資料を準備する。これらの改善・変更の効果を「AZamoodle」のテスト・課題で確認しながら授業を進めていく。</p>
<p>5. 学生授業評価</p>
<p>① <u>授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。</u></p> <p>大きな問題点はない。可能な限り授業資料を「AZamoodle」を介して公開する。</p> <p>② <u>①の結果はどうでしたか。</u></p> <p>遠隔の授業や学力考査であったことから、学生の習熟度や反応を正確に把握することが難しかった。</p> <p>②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。</p> <p>遠隔授業であっても双方方向の授業を試みるため、「AZamoodle」のテスト・課題のコメント等を活用する。</p>
<p>6. 学生の学修成果</p>
<p>① <u>学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</u></p> <p>学修項目と直接関連するような社会ニュース・著書・学術論文の事例等を提示し、その課題についての背景、解決手法および展開について、具体的な事例等を用いて解説する。</p> <p>(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)</p> <p>②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価 卒業および修了後における対象学生の進路</p>
<p>7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)</p> <p>積極的に参加する</p>
<p>8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)</p> <p>人と動物の共生を目指して、遺伝子レベルから生態系レベルに至る動物の保有する諸機能を人間生活に安全かつ効果的に利活用するための知識と技術およびその組み合わせ等を教授するために、「ポストコロナ」に対応した授業資料等を作成し、学生満足度の高い教授法について検討する。</p>
<p>9. 添付資料 (根拠資料)</p>